

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

| | |
|----------|---|
| 会 議 名 | 令和 6 年度第 1 回高松市スポーツ推進審議会 |
| 開催日時 | 令和 7 年 3 月 2 5 日(火) 1 8 時 3 0 分～2 0 時 1 5 分 |
| 開催場所 | 高松市役所 1 1 階 1 1 0 会議室 |
| 議 題 | 会長・副会長の選任について 第 2 期高松市スポーツ推進計画の進捗状況について 令和 6 年度・7 年度におけるスポーツイベント・施設の状況について |
| 公開の区分 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 上記理由 | |
| 出席委員 | 岡委員、岡部委員、奥委員、笹崎委員、清水委員、中委員、光吉委員、元木委員、山根委員、吉田委員、米村委員 |
| 傍 聴 者 | 0 人 (定員 5 人) |
| 担当課及び連絡先 | スポーツ振興課 8 3 9 - 2 6 2 6 |

会議経過及び会議結果

【会議の経過】

- 1 各委員の紹介
- 2 創造都市推進局 次田局長の挨拶後、高松市スポーツ推進審議会条例第 5 条第 1 項の規定に基づき、委員の互選により、会長には米村委員、副会長には、中委員及び岡部委員が選ばれた。
また、会長代理の順位について、中副会長を第 1 位とすることを会長が決定した。
- 3 事務局から、会議成立の報告後、会議の公開について委員会に諮り、審議した結果、公開とすることを決定した。
- 4 議題
事務局から、「第 2 期高松市スポーツ推進計画の進捗状況について」について、説明した。
- 5 主な意見、質疑等については次のとおり

○第 2 期高松市スポーツ推進計画の進捗状況について

【議長】

事務局より説明のあった資料について、質問等はないか。

【A 委員】

達成率・数値目標について、数値目標に対して達成率は低い、前年度比から 100%を超えているものがある。数値目標の見込み違いなのか、また、高い目標を持って進めているのか分かりにくい。

【事務局】

計画策定の際の数値目標は、令和 5 年度の最新の実績値から、向上させていく目標として設定している。項目によっては早々に達成して

会議経過及び会議結果

いるが、少しでも数値目標に近づくよう取り組む。

【B委員】

中学校部活動の地域展開について、教員の働き方改革から始まったと思うが、土日祝日に外部指導者を受け皿として一律に運用することは、難しい。クラブに所属する生徒のように、生徒の部活動に対する目標が異なっており、目標に合わせて高松市をエリアで分け、自転車で移動することも考えたが、外部指導者の確保や受益者負担など、議論する時間が足りないくらい課題がある。子どもや保護者に負担が増える制度では意味がない。誰が、どのように進めていくのか、4月以降、早急に議論を進めてほしい。

また、小学校夜間開放事業について、スポーツ少年団などの利用者が、日没後の19時まで照明設備を利用できるようになったと聞いたが、地域展開になった際に中学生が部活動として使用できるのかなど、想定していない課題が懸念される。

【議長】

中学校部活動の地域展開ということで、おそらく教育委員会の方が中心に検討が進められていると思うが、利用場所や外部指導者の確保の問題では、スポーツ推進審議会でも議論する範囲と重複する部分がある。協力体制など、どの程度のことが考えられるか。

【事務局】

昨年には、高松市・高松市教育委員会・（公財）高松市スポーツ協会の3者で、運動部活動の地域展開を進めるための協定を締結している。高松市地域部活動検討委員会にも、スポーツ振興課の職員が同席し、軟式野球、柔道、ストリートダンスなど、モデル事業が行われたことや、コーディネーターを5名配置し、前向きな意見がある一方、地域展開後の指導者や活動場所の確保について、様々な意見が出ていることは承知している。

今後は、教育委員会の方で、高松市地域部活動検討委員会の意見も踏まえ、関係団体と連携しながら、あり方を検討していくと伺っているが、本日の会議での意見は教育委員会と共有し、連携してまいりたい。

学校開放事業は、本市においては中学校の施設開放と小学校の施設開放で別の運営方法となっている。中学校開放は10名以上で作られた団体が抽選で校区の制限なく利用することができるが、小学校開放については、各校区に設置する開放運営委員会による自主的な運営であり、校区内住民を対象に開放され、19時以降は大人の利用ということになっている。

今回、見直しを行った内容は、開放運営委員会の事務担当者会での意見等も踏まえ、利用者の安全面に配慮し、照明使用に係る周辺住民の合意形成や学校の理解を得られることを条件に、照明施設を19時まで利用できるよう手引きを見直した。

また、現状では、小学校は校区住民に開放しているため、中学校の部活動では使用できない。活動場所の過不足も調査はできていない。

【C委員】

地域で事情は異なるが、私も学校の開放運営委員会に関係している。それを一元的に全て同じ運用とすることは、なかなか難しい。開放運営委員会を設置しているのであれば、独自性を、もう少し認めてもよいのではないか。子どもが、「スポーツをやりたいけど、場所がない」ということもあった。既存施設をより使用しやすくなる環境作

りを、考えていかなければいけない。

高松市のルールは、念頭に置かざるをえないが、実情に合わない内容もある。柔軟な権限、施設の有効利用など考える必要がある。

【B 委員】

余談だが、地域の河川清掃や里山の清掃を実施した際、中学校のサッカー部やバレー部、小学校の教員も参加して、地域の中で相互に感謝の言葉があり、良好な関係が生まれている。

開放運営委員会の運用について、詳細まで規定する必要はないが、委員会内で柔軟な対応ができるよう検討してもよいのではないか。

【議長】

施設の運用と高松市の運用が実情として、ずれ始めてきている段階で、規定等を検討する時期ではないか。地域の中学生を巻き込めば、地域の活性化にも繋がる。前向きに、検討いただきたい。

【D 委員】

現状の把握をしないと、問題点は出てこない。やはり見直しの時期であると感じる。何らかの調査を実施することを、今後、検討いただきたい。

【B 委員】

実情に合わせるため、必要な調査を実施し、地域展開をスタートしていかなければいけない。子どもたちの進路にも関わることなので、大人だけではなく、子どもたちにも周知する必要がある。子どもたちの意見を取り入れるようにすれば、子どもたちも責任感を持ってこの問題を考えるようになる。その上で、方向性を可視化する。

【議長】

地域スポーツの施設環境を作ることは、これから変わってくると思う。今後は、ひとつのアイデアとして、子どもを巻き込むということも踏まえて、地域がより活性化していけるような視点も念頭におきながら、検討いただきたい。

○令和6年度・7年度におけるスポーツイベント・施設の状況について

【議長】

事務局より説明のあった資料について、質問等はないか。

【D 委員】

来年度、修繕工事等による閉館施設はあるか。

【事務局】

香川総合体育館第一競技場、牟礼中央公園グラウンドや福岡町プール、東部運動公園第1サッカー場など、現場施工に合わせて休館期間がある。

【E 委員】

旧市民プールの跡地利用については、如何。

【事務局】

県有地であり、現在、県が中心となって当該跡地に係る今後の活用方法が検討されているが、現時点でお伝えできる情報はない。

【C 委員】

私見だが、市の総合体育館より学校体育施設の方が、利用者は多いのではないかと踏まえ、学校の体育館を優先して修繕するというようなことは可能か。

【事務局】

利用者数や稼働率など、様々な見方がある。学校の体育館は教育施設であり、スポーツ施設は様々な大会等の会場となっているため、施設の状況を踏まえ、予算化すべきと考える。

【C委員】

施設利用の際には、様々な年代の人がいて、近くの施設を使用したいという人は多いと思う。スポーツ実施率70%を達成する上で、利用者にとって、競技性の高いスポーツや気軽に楽しめるスポーツなど様々な用途に対応できるよう、地域で使いやすい施設の環境作りを念頭においてほしい。

【事務局】

スポーツ実施率を向上させるためには、日頃、スポーツをしていない人をいかに引き込み、教室への参加や体を動かす楽しさを知ってもらうことが重要だと考える。地域のスポーツとなると、地元の体育館が参加しやすいので、安全な利用に支障を来すような状況があれば、可能な限り修繕してまいりたい。

【A委員】

イベントをきっかけとした、継続的な運動に繋がる機会の創出や時間の共有などは、様々な手法がある。一つは、ジョギングアプリ等を用いて、スポーツを継続する方法がある。また、競技大会に参加する子どもたちの保護者をターゲットに、競技中の待ち時間にミニイベントを開催して、普段から体を動かすきっかけづくりにするなど考えられる。機会の創出や動機付けの視線が低いほど、スポーツ実施率70%達成に近づく。

【事務局】

スポーツレクリエーションイベントに参加した方は、その場では喜んでくれるが、継続する取組については、十分ではないかもしれない。また、運営協力していただいている競技団体においては、競技人口を増やしたいとの考えはある。スポーツの継続や競技人口拡大に向けた取組については、今後も、検討してまいりたい。

【F委員】

資料によると、小学校等でパラスポーツの交流会等を行っているが、どのように募集して、開催しているか。

【事務局】

市が企画・案内し、要望があった小学校等に選手を派遣する場合や、競技大会に合わせて主催団体から案内する場合など、いくつかパターンがある。逆に、小学校からパラスポーツ体験会の開催要望があれば、個別に対応する。

また、資料には記載していないが、高松市スポーツ推進委員会には、ニュースポーツ・パラスポーツ体験会を随所で開催していただいております。子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方が参加している。

【F委員】

自身が参加した、カローリングやボッチャを運営するパラスポーツ体験会では、これらが参加しやすい種目ということもあって、指導者と障がいがある参加者が一緒になって楽しむことができた。障がいがある方も含めて、地域の子どもから高齢者までどんどん巻き込んでいくことが、地域の活性化に繋がる。

【議長】

ニュースポーツやパラスポーツの受け皿は、まだ準備段階だと感じる。パラスポーツの発展や普及のためにも、受け皿の確保を検討いただきたい。

【G委員】

高松市スポーツ推進委員の体験会では、障がいのある方はどれぐらい参加しているのか。スロープがない施設や、多目的トイレがない施設では、障がいのある方の参加が難しい部分があるが、地域との関わりが少ない方は、どの程度、施設の状況を把握しているのか。

【事務局】

障がいのある参加者がいない時があれば、近くの支援施設の職員が連れて来てくれることもある。障がいのある方にとっては、スポーツする場所や機会が少なく、特定の施設やプールで運動することが多かったのではないか。

高松市スポーツ推進委員の皆様の御理解や御協力を得ながら、チラシに多目的トイレの有無等の情報を記載し、募集している。また、補助金を活用して、パラスポーツの環境作りのための備品購入も進めている。

【G委員】

付帯施設を工事によって設置することは難しいが、移動型のスロープを設置するなど簡易な方法であっても、階段の昇降が可能になる。ほかにも、チラシに近隣の施設に多目的トイレがある等を明記して、参加しやすいことを周知する手法もある。

【B委員】

年齢・性別・屋内外を問わず、一つの会場に集まって、一つのことで、笑ったり応援したり、人のために頑張ろうとか自分のいいところを見せようとか、人と関わるのが大事だと思う。笑うだけで、心のリフレッシュになる。その延長のスポーツだと思っている。障害のある方を含めて、集まる場所があり、それを支援する人たちがいて、会場に来ることができる方がいる。まずは、参加して「来てよかった」と思ってもらい、「じゃあ、次もやってね、お願いします、今日はありがとうございました」という関係ができることで、様々な人間関係が構築されていく。それが校区内外に波及して、地元で練習や大会に参加して、「市の大会に参加したい」ということに繋がってもいい。逆に、「市の大会に出て楽しかったから地元で、やりたい」ということもあるかもしれない。要は人の繋がりを、持つことが大切だと思う。

【議長】

地域からスポーツ実施率を向上するために、イベントに携わる方の参加は必要になるので、引き続き、お願いしたい。

【H委員】

高松スポーツ健康感謝祭に運営として参加したところ、以前は、参

加者は高齢者などが多いように感じていたが、小学校にチラシを配布するようになり、家族連れの参加が増えた。潜在的に運動したい方はいると思うが、小学校以外にチラシを配布できないか。

【事務局】

市で関わっている年間3つのスポーツレクリエーションイベントの内、一つが高松スポーツ健康感謝祭である。どのイベントにも共通することで、親子連れの方に参加してもらうには、これだけSNSが発達しているも、やはりチラシを小学校に配布することが効果的だと捉えている。今のイベントの内容だと、中学校に配布して、生徒同士で参加することはあまり見込めない。高校生以上になると更に難しいと感じている。市の方では、フェイスブックやLINEでも発信しているが、市民に登録してもらわないと情報を受け取ってもらうことができない。あとは、関係団体の情報発信にリンクを掲載してもらうなど、地道に情報発信していくことが、一番だと考えている。

【議長】

ニーズの高いイベントについては、参加したい人が参加できるように、効果的な情報発信の手法を検討いただきたい。

【I委員】

高松市スポーツ推進委員については、現在、いくつかの校区で欠員になっている。パラスポーツの普及などを行っているが、人数が不足しているため、運営が厳しい状況である。本審議会の委員の皆様は、様々な団体と関わりがあると思うので、スポーツ推進委員の確保に向けた御尽力をお願いしたい。

【B委員】

非常に大きな問題である。コミュニティ協議会の中でも、地区体育協会会長が他の地域団体と十分に関わりを持っている地区もあれば、そうではない地区もある。地区体育協会と他の地域団体との関わり方のバランスに強弱がある。

スポーツ推進委員の方は、本当に多忙であり、地区大会でも、とても協力的で、頭の下がる思いである。自身が携わる団体でも、この問題を検討していきたい。

【J委員】

パラスポーツに関わっているが、ソフト面もハード面も整ってきていると感じる。スポーツ推進委員の方の御理解も得られて、様々な事業を一緒にして推進してもらっている。数値目標を出して、それに向けて取り組んでいるのは、おそらく、香川県内でも高松市だけではないか。多くの方の支援のおかげだと感じているので、自身も協力していきたい。

6 米村会長（議長）閉会宣言

全ての議事が終了したことを確認し、米村会長（議長）が閉会を宣言し、閉会した。